

第4回 うらやす市民大学運営委員会 議事要旨

- 1 開催日時 平成22年2月16日(金)15:00~17:00
- 2 開催場所 うらやす市民大学 受講室
- 3 出席者 (委員)
古在委員長、山内副委員長、宮崎委員、阪本委員、東委員、杉村委員、高橋委員、武田委員、山本委員、(欠席2名 菊地委員、押尾委員)
(事務局)
市民大学プロジェクト 岩波、金子、一戸
市民大学事務局サポーター 林
コンサルタント (財)日本開発構想研究所(井上、長島、大橋)
- 4 議題
平成22年度前期授業科目について
授業科目の定員および選考方法について
新規応募者向け説明及び公開授業、学長講演会の開催について
- 5 議事の概要
 - (1)平成22年度前期授業科目について
 - ・各授業科目の概要などについて事務局から説明の後、意見交換を行った。
 - (2)授業科目の定員および選考方法について
 - ・定員及び選考方法について、入学までの流れについて事務局から説明の後、意見交換を行った。
 - (3)新規応募者向け説明及び公開授業、学長講演会の開催について
 - ・市民大学学校説明会などについて事務局から説明の後、意見交換を行った。
 - (4)その他
 - ・市民大学の今後の運営などについて意見交換を行った。
 - ・次回日程は4月14日(水)9時から14時まで、場所はうらやす市民大学受講室で行う。

6 会議経過（主な意見などの要約）

委員長挨拶

- ・平成 21 年度の授業が無事に終わり、皆様の大変なご努力に感謝している。本日は、平成 22 年度前期授業科目、それにまつわる定員・選考についてご意見宜しくお願いたします。

平成 22 年度前期授業科目について

- ・平成 22 年度前期授業科目数は 16 科目を予定している。前回運営委員会で「うらやすの介護ボランティアを考える」と「介護予防リーダー養成講座」を統合して一授業科目にするとしたが、調整の結果、別講座として立ち上げることとなった。「介護」と「介護予防」とは内容にかなり差があることなどが主な理由。
- ・また前回、懸案となっていた「創業者支援」については見送りとなった。

（運営体制について）

- ・実質的に授業科目数が今期の 1.5 倍になったが、運営していく体制は大丈夫なのか。現状の教室を使っている運営では、調整を含めて、この授業科目数が限界だと思う。事務局の体制については、今年の実績があるので、ある程度、人員の確保に期待している。
- ・今の学生の中にもそれなりの志しを持った人がいるので、学生が関われる仕組みを作り、サポート体制を作っていくべきではないか。
- ・学生サイドからも積極的に運営に関わっていくことが必要になるのではないか。
- ・修了生の活躍の場として、修了生の中から「准教授や助手」という名目で人を選んで、大学の運営に関わるということがあっていいのでは。

（授業回数について）

- ・授業回数が多様化している。20 回というのは、10 回という単位を基準にしているから理解できる。また、11 回、12 回というのは誤差の範囲かもしれない。ただ、授業回数については、基準がないとグズグズしてしまうので「働く女性応援講座」の 7 回というのはなんとかならないか。

「働く女性応援講座」については、他の授業科目とは異質で、内容についてもカルチャー的な要素がある。今回はとにかく、こういったところに普段来ていただけない、女性にどうにかして来てもらうということが優先。回数についてもあまり多いと集まらないのではという意見もあり、7 回になっている。場所についても仕事帰りに毎回ここまで来てもらうのは難しいので、半分は市民プラザ Wave101 を使用する。また、最終回（第 8 回）は懇談会なので、授業回数には加えていない。

（授業の頻度について）

- ・月 4 回授業がある科目について、受講生の立場からすると辛いのではという話が前に

もあったが、これは変更も可能なのか。授業科目によっては続けて授業を行ったほうがいいものもあると思うが、その辺の意図を説明して欲しい。

基本的には隔週での授業を各コーディネーターをお願いしている。継続して授業を行ったほうが効果的であるとコーディネーターが判断した場合には、毎週の授業になっているので、シラバスの変更はしない。

- ・毎週授業があり、継続して受けた方が効果的である時に、授業を欠席した場合に、これは受講者の都合ですが、差し障りが出てくるということがあるということか。

授業によると思うが、欠席すると影響はあると思う。

- ・それに関連して、授業をビデオ撮影しているが、このビデオは欠席した際に見られるのか。また、公開までにどの程度時間がかかるのか、次の授業までに見ることができるのか。

ビデオ撮影をしているのは、すぐに受講生に提供することが目的ではなく、開校して初めての授業なので研究のために撮影している。ただ、欠席した方が、すぐに授業を見たいというのも分かる話なので、現在は他部局から借りているが、来年度は市民大学でカメラを用意する予定である。

(授業科目の名称について)

- ・授業科目の名称については、今期は「 を考える」にしたらどうか等の意見があったが、来期についてはこれでいいのか。
- ・「浦安から日本と世界を考える」については、他の授業科目に合わせて「浦安」を「うらやす」に変えていただきたい。
- ・新規の授業科目については、名称の付けかたが伝わっていない気がする。
- ・「園芸でつくる幸せ社会」についてもそうであったが、各コーディネーターに対して、かなり事前に説明を繰り返さないと名称は変えてくれないと思う。「一方的に教えるという態度ではなくて、一緒に考えるという態度で」名称を付けてもらうようにする。
- ・「介護予防リーダー養成講座」は、副題くらいに考えたらどうか。
- ・「浦安市民への『超・経済学』入門」の入門というのも、変えてもらうようにする。
- ・「うらやすで学ぶ歴史未来学」の「」はなんのために付いているのか。

内容がこれまでと違う、という意味で「」なのではないか。

「」については、分かりにくいので、担当コーディネーターと調整して、取ってもらうようにする。

(受講条件等について)

- ・受講生数がオーバーした場合などに、どのような人を優先する等の注釈は備考で書くことになるのか。
- ・初めて受講する人には分かりにくいので、はっきり書いていただきたい。
備考欄では分かりにくいので、各シラバスの上に明記する。

- ・優先条件等については、一律に表現するのか、それとも講師のニュアンスを大切にするのか。各コーディネーターへの校正が必要になるのではないかな。

特に受講条件の表記等については、校正をしていただくことにする。

(募集案内について)

- ・募集案内のスペースに余裕があれば、備考欄にある条件等をもう少ししっかり書いた方がいいのではないかな。また、土曜日でもやっている、夜間でもやっているというPRを加えるとわかりやすいのではないかな。

募集案内のスペースなどを考えて、表記の仕方などを検討する。

- ・シラバスの備考欄については編集するのか。

できるだけ統一したかたちで編集をする。

各授業科目について

(うらやす市民大学入門について)

- ・「うらやす市民大学入門」について、今期は2回講義を行ったが、今回は1回になったのか。

「うらやす市民大学入門」は新規入学者を対象とし、今回は50人程度を想定しているため1回で考えている。また、今回は市長・財政課・市民活動課で行ったが、内容が重なっているという意見を受講生からいただいたため、今回は市長の講義だけで前回の内容すべてを包括したい。

- ・「うらやす市民大学入門」については、まちづくりについて、としか書いていないが、今回のシラバスもそうなるのか。

その予定。

(うらやすの情報を考えるについて)

- ・うらやす市民大学のホームページの管理等と「うらやすの情報を考える」は関連性があるのか。

ホームページへの情報の提供の仕方等が授業内容になっているとは思いますが、市民大学のホームページとは直接的な関係はない。

- ・現在は、誰が市民大学のホームページを管理しているのか。

更新は事務局でおこなっている。内容の修正についてはコンサルがおこなっている。

- ・学生のページがあり、学生の番号を入れると見られるようだが。

- ・学生の番号と名前を入れるとログインでき、そこでは学生同士のやりとりがおこなわれている。

- ・今のところ学生しか見られないのか。どんな内容なのか見ようと思ったら学生番号がないので見ることはできなかった。

- ・ホームページの運営などを含めて体制づくりが必要だと思う。

- ・「うらやすの情報を考える」は、ホームページと関連付けた方がいい。それは市民大学

- のホームページということではなくても、活動に関連したかたちで関連付けは必要だ。
- ・「うらやすの情報を考える」については、ホームページとの関連付けを意識してほしいと、担当コーディネーターに伝えることとする。

(介護予防リーダー養成講座について)

- ・介護予防リーダー養成講座は、市の担当で扱っていた時には、介護予防リーダーになる意志が強い受講者が多かったと思うが、市民大学でその講座を行う場合にはどうなるのか。
- ・受講者が、なにかその後に市の活動にかかわれるような仕組みをどのように考えるのかということか。
- ・実際にどのような活動をしているのか。そういった情報があったほうがいい。
この授業科目については、猫実地域包括支援センターの職員にも毎回来ていただき、学習が終わった後、ある程度フォローすることや、情報提供することを条件に開講する。担当課では、昨年度の受講者に対して、フォローアップ講座や情報提供を今年度実施する予定。この授業科目に限らず、本来担当がある授業科目については、事業に関われるように連絡調整を進めている。
- ・昨年度、地域包括支援センターでやっていたものと授業内容は同じなのか。
シラバスについては、東京都健康長寿医療センターによってプログラミングされたものがあるため、ほぼ同じ内容になっている。今回、既存の「うらやすの介護ボランティアを考える」とあわせて新しいプログラムが作れないかどうか調整したが、介護を受けないためにどうしたらいいか、介護を受ける状況になった時にどうしたらいいか、それを無理に一つの授業科目にするのは乱暴すぎないか、という意見があり、今回は二つに分けて実施することとなった。

(うらやすの介護ボランティアをつくるについて)

- ・「うらやすの介護ボランティアをつくる」については、市と関わりを考えているのか。
市の担当部局が話をし、市の状況、市の計画を知っていただいた上で授業をしている。できれば修了後に、その部局でのボランティアや委員の委嘱等、活動の場を持たせていただけたらと思っている。
- ・担当コーディネーターも浦安市との繋がりを意識してカリキュラムを進めているということか。
担当コーディネーターには、非常に勉強していただいております、恐縮に思っています。

その他

- ・各コーディネーターに、講師の入れ替え希望が伝わっているのか。将来的には、卒業生が授業運営に関われるようにするなど、「こういう趣旨で授業を進めていただきたい」という授業方針を、開講前に各コーディネーターに充分伝えておくようにする。

授業科目の定員および選考方法について

- ・新規については前回と同様に、入学動機についての作文の内容を学長・副学長に判断していただく。
- ・かなりの応募が見込まれるため、受講科目選考方法については、受講条件にあう人から優先に抽選で選考する。また、必ず1授業科目は受講できるようにする。選考方法の詳細については、今後、検討していきたい。

(受講申込書について)

- ・新規用受講申込書と現在の学生用受講申込書とは違うのか。
初めて受講される方には、前回同様に写真を貼付する受講申込書、現在の学生用には授業の申込だけのものを別に用意している。

(課題作文について)

- ・よっぽど問題がなければ不合格にすることもないので、もっと簡便化したほうがいいのか。せめて200字~400字程度にしたらどうか。
- ・新規に入学を誘っている人の中には、作文がなかったらいいのだけどという意見の人もいる。
- ・字数が限定されれば、その範囲で書こうという気になる。
- ・少なくともいいというニュアンスを出してくれれば気軽に書ける。
- ・400字以内と書いて、字数が少ないからといって不合格にすることはありません、と明記しておけばいいのではないかと。書きたい人も多いただろうから、字数に関しては400字以内と明記はするが、マス目は多くてもいいのではないかと。
前回の募集案内では裏表紙も作文用紙となっていたので、今回は裏表紙を白紙とし、字数に関しては400字以内とする。

(受講できる授業科目の上限について)

- ・第2回運営委員会で3科目を上限とするという案が出た後、上限はなくしたほうがいいのか、という意見も出てきている。
- ・「予想だと3倍くらいの倍率はあるようだ」と聞くと、「3科目受講したいときは10希望しないと危ない」と思って10科目希望する方も出てくる。中には、希望科目が全部当たってしまうこともあり得る。そのようなことを想定すると上限を決めたほうがいいのかと思う。
- ・学生本人の問題なので上限をつけなくていいのではないかと。ただし優先順位は書いてもらった方がいい。
受講できる授業科目の上限は設けないことにする。

(定員を超えた場合の選考方法について)

- ・定員を超えた場合には抽選になると思うが、その抽選の方法、詳細についてはどうなっているのか。

- ・優先順位を付けさせて、どのような選考をするのか、という質問がかなり出てくるとは思う。ルールを決めて、しっかりと対応できるようにしておかないといけない。
- ・まず、1 授業科目だけ申し込んだ人を決めなければならない。あとは希望順に割り付けていくのだが、結構大変な作業だと思う。また、理論的には問題はないのだが、正しく順位を付けてこない人がいた場合にどうするかを考えなければならない。
- ・最初に順位を振っておいて、希望する授業科目を書いてもらうようにすれば問題は発生しないのではないかと。

新規応募者向け説明及び公開授業、学長講演会の開催について

- ・新規応募者向けの説明会を2回予定している。1回目が3月18日(木)に公開授業を、2回目は3月28日(日)に学長講演会を行う。

(1回目の説明会について)

- ・この説明会を2度とも受ける人はいないと思うので、古在学長に2度の講演をお願いするつもりはないが、1回目の説明会では、担当講師の講義に古在学長のエッセンスを入れていただき、大学の趣旨についてははっきり伝えなくてはならないと思う。
- ・大学の趣旨について、事務局の説明以外に副学長が話す予定をいれたらどうか。1回目の説明会では、事務局説明と質疑応答で1時間、担当講師の講義で1時間を考えている。
- ・1回目の説明会の内容については保留ということにする。

(広報活動について)

- ・どのようなかたちで広報活動をするのか。
3月15日号の「広報うらやす」をメインに、うらやす新聞等のミニコミ誌で広報活動を行う。
- ・3月18日(木)というのは、ずらせないのか。3月15日の広報に出して3日後に公開授業というのは無理ではないか。そのような火種を作らないように1週間でも延期することはできないか。
- ・当日、担当する講師との調整もあると思うが、強い意見が出たので配慮していただく。

(学生によるPR活動について)

- ・学生がPRしてくれるようなかたちにならないか。
- ・修了生による体験談を話してもらうことを考えたらどうか。
- ・自分が受講した科目は分かるが、受講していない科目は分からない。全授業科目について、どのような科目であったのか、という話を聞きたいという要望があるので、体験談を話してもらえる場を設定しなければならないと思う。また、それについては学生側で設定したほうがいいのではないかと、という気もしている。
- ・ぜひ学生主導でやっていただいて、それを参考に3月28日(日)も受講生の体験談を

入れたらどうか。体験談、アンケート集計結果等について 20 分程度の時間を取ったほうが、新規受講希望者の判断の材料として身近に感じていいのではないか。

- ・在校生を対象とする各授業科目についての体験談は、28 日（日）とは別に考えて、学生主導で行う。
- ・3 月 12 日にも、美浜 1～3 丁目の老人会を中心としたグループに対し市民大学の説明に行く。その際にも学生の体験談を入れたい。

その他

（今後のカリキュラムについて）

- ・現段階で、通年の科目も二つあるが、平成 22 年度後期については、これとは別に、授業科目も考えていくということでもいいのか。
- ・後期は、授業科目の編成替えがあるのか、それとも今回の繰り返しになるのか。今後のカリキュラムについては、授業科目の編成替え等も含めて、次回以降、検討していただくことになると思う。

（今後の市民大学の構想について）

- ・市民大学として今後どのように運営していくのかを考える中で、カリキュラムが半期なのか、通年なのかは一番基本的な問題だ。
- ・現在は、市民大学を立ち上げたばかりで、半期でカリキュラムを組んでいるが、事務局の作業量が増え、問題を抱えている。市民の力を投入できる仕組みづくりを軌道に乗せるためのサポートを進めていかなければいけないと思う。
- ・平成 23 年度については、通年のカリキュラムを考える。これに向かって、市民を代表している運営委員とサポーターで、9 月を目処に、これからの構想、運営の方法についてレポートを作り、提案していただくこととする。
- ・現在、運営委員会しかないが、その下にあるべき委員会もスタートさせて、学生を多く入れていけばいいと思う。
- ・運営委員会以外の必要と思われる委員会の立ち上げについても提案に盛り込んでいただき、皆さんに周知して呼び込んでいく。議事録にも入れて、正式にスタートしました、ということにする。
- ・運営準備会報告書で運営について触れているが、その内容を含めてのことか。運営準備会報告書の精神を実現していこうということ。

（市民大学の活動を発信することについて）

- ・市民大学の活動は、本にするだけの価値があるのではないか。受講生によって、「こうしてうらやす市民大学を創りました」ということをアンケート調査、感想文、これから

の構想という3本立てで書く。学生だけでやってもいいし、どこかの出版社の企画本で創ることを考えてもいいのでは。

- ・各授業科目の中での成果についても、それを授業の中でだけではなく、外部に対して発表会のようなものも考えていったらどうか。
- ・「うらやす里海公園をつくる」は、市民に対して発表会をするプログラムになっている。
- ・「うらやすの街づくりを考える」については、今年度の授業成果を製本して資料コーナーに置こうという動きがある。
- ・授業の成果を発信していくことについては、各コーディネーターに考えてもらうようにする。税金を使っているので、社会還元が非常に重要になる。自分が勉強した、知識が身についたというだけではなく、それを広く浦安市民はもちろん、市民以外にも伝わるかたちで残していく。それをやっている課程で自分自身も成長して行く、というスタイルになると一番理想的だし、少なくともそこを目指すべきだと思う。

(第5回運営委員会について)

- ・平成22年度前期の募集締切りに合わせて4月11日(月)の週に開催したい。
- ・後期授業科目の決定も4月中に行う必要があり、間に合うようであれば、市民委員からの今後の大学運営に関するレポートも提出していただきたい。
- ・受講生募集の選考結果については、完全な資料が出るかどうかかわからないが、第5回運営委員会は4月14日(水)9時からとする。閉会については議事が多くなることが予想されるので14時とする。